

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

キリンビバレッジ(株)ご協力の下、横浜国立大学経営学部**1 年生全員が新商品開発にチャレンジ！**

- 横浜国立大学経営学部では、初年次教育の一環として、**キリンビバレッジ株式会社のご協力により、「横浜・湘南発の清涼飲料新商品の開発」プロジェクト**を展開しています。
- このプロジェクトは、2017 年 4 月の学部改組において導入された、**1 年次必修科目「経営学リテラシー」**の中で展開されています。
- このプロジェクトは、「経営学リテラシー」の総まとめとして位置づけられ、2018 年度は、**キリンビバレッジ株式会社執行役員企画部長 山崎徹氏**による課題提示を受け、1 年生全員が 4~6 名 1 チームとなり、グループワークを通じて約 3 カ月にわたり新商品開発提案の検討に取り組んできました。
- 最終回の講義（1 月 30 日）では、山崎氏と同社横浜支社長佐藤栄二氏をお招きし、代表 8 チームによるプレゼンテーション会が行われます。

以下のとおりプレゼンテーションを開催しますので、積極的なご取材をお願い致します。

■開催概要

【日時】2019 年 1 月 30 日（水）16:15~17:45

【場所】横浜国立大学経営学部講義棟 2 号館「109 教室」（横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-4）

【詳細】「経営学リテラシー」は、経営学部の 1 年生の学生全員が履修することを求められる演習科目です。経営学を学ぶ上で礎となるスキルや知識の習得を目指すとともに、ビジネスを巡る課題を局所的ではなく、総合的な視点から定義し、解決策を提案することのできる能力の養成を目指しています。この科目の終盤には、企業の方の協力を得てビジネス課題を提示していただき、それに応えるために学生が 4~6 名で 1 チームとなり、グループワークやフィールドワークを通じて、解決策を提案するプロジェクトを組み入れています。2017 年度は株式会社横浜赤レンガ、2018 年度はキリンビバレッジ株式会社のご協力の下、授業が展開されています。本授業の詳細につきましては、別紙シラバスをご参照ください。なお、プレゼンテーション会は、この授業の最終回（30 回目）として実施されます。

- 本授業の取材等につきましては、以下にお問い合わせください。

本件に関するお問い合わせ先：

横浜国立大学経営学部 経営学リテラシー運営委員会 委員長・教授 大森 明

E-mail: omori-akira-kc@ynu.ac.jp

「経営学リテラシー」共通シラバス（2018年度）

●授業の目的

経営学部では、大学生活のみならず卒業後のキャリアにおいて必要とされる能力の育成を目指しています。本科目では、経営に関連する最近のトピックやゲストスピーカーによる講演を題材に、そうした能力の礎となるスキルや知識の修得を目指すとともに、ビジネスをめぐる課題を局所的にではなく統合的な視点から定義し、解決策を提案することのできる能力の養成を目指します。くわえて、本科目の受講生は、将来のキャリアビジョンを検討し、次年次以降の学修プランの策定に取り組みます。

また、私たちが実社会において課題を解決するためには、他者との協力が必要となります。そのような他者との関わり合いのなかで、より質の高い成果を生み出し、発信するためには、いくつかの大切なスキルがあります。そのスキルの修得を本科目では目指します。具体的には、(1)個々人の「読む」「聴く」「考える」「伝える」ための力、(2)ビジネス統合分析力を伸ばすとともに、(3)グループワークを通じて他者と議論しながら、様々な考えをまとめて発信する力を修得することがこの授業の目的です。

●授業計画

- ①ガイダンス： 学修テーマの提示、履修指導とグループワーク実習
- ②講義： パワーポイント資料の作り方と発表方法（全体教室）
- ③実習： ノートテイキングとノート作成
- ④講義： メンタルヘルスリテラシー／海外危機管理について（全体教室）
- ⑤実習： 情報検索と資料収集 ※グループ課題①の提示
- ⑥グループワーク： グループ課題①の調査と資料作成
- ⑦発表： グループ課題①の成果物の発表と振り返り＜前半＞
- ⑧発表： グループ課題①の成果物の発表と振り返り＜後半＞
- ⑨講義： 情報リテラシーについて（全体教室）
- ⑩実習： 情報検索と資料収集 ※グループ課題②の提示
- ⑪グループワーク： グループ課題②の調査と資料作成
- ⑫発表： グループ課題②の成果物の発表と振り返り＜前半＞
- ⑬発表： グループ課題②の成果物の発表と振り返り＜後半＞ ※代表チームの決定
- ⑭学修プランとキャリアプランの作成、履修指導
- ⑮全体発表会（全体教室）

- ⑯ガイダンス： 学修テーマの提示、履修指導とグループワーク実習
- ⑰実習： 質問の方法とレポートの書き方
- ⑱講義： ゲストスピーカー（実務家）による講演（全体教室）

- ⑱講義： フィールドワークの方法とルール（全体教室） ※グループ課題③の提示
- ⑲振り返り： 提出レポートの評価と意見交換
- ⑳実習： 情報検索と資料収集
- ㉑グループワーク： グループ課題③の調査と資料作成
- ㉒発表： グループ課題③の成果物の発表と振り返り＜前半＞
- ㉓発表： グループ課題③の成果物の発表と振り返り＜後半＞ ※グループ課題④の提示
- ㉔グループワーク： グループ課題④の調査と資料作成
- ㉕グループワーク： グループ課題④の調査と資料作成
- ㉖発表： グループ課題④の成果物の発表と振り返り＜前半＞
- ㉗発表： グループ課題④の成果物の発表と振り返り＜後半＞ ※代表チームの決定
- ㉘学修プランとキャリアプランの作成、履修指導
- ㉙全体発表会（全体教室）

●授業時間外の学修内容

・授業中に提示される個人向けの課題、グループ向けの課題に取り組み、指定された期日までに成果物を提出することが求められる。

●履修目標

- ・「読む」： 必要な文献・データを入手でき、それを的確に読み取ることができる。
- ・「聴く」： 話し手の意見を的確に聴き取ることができる。
- ・「考える」： 入手した情報から論理的に考えることができる。
- ・「伝える」： 文献・データを適切に引用し、自らの考えを口頭や文章で的確に伝えることができる。
- ・「ビジネス統合分析力」： ビジネスをめぐる課題を局所的ではなく統合的な視点から定義し分析することができる。
- ・「チームワーク」： 他者と協力しチームとして、より質の高い成果を生み出すことができる。

●到達目標

- ・「読む」： 必要な文献・データを入手でき、それを読み取ることができる。
- ・「聴く」： 話し手の意見を聴き取ることができる。
- ・「考える」： 入手した情報に基づいて考えることができる。
- ・「伝える」： 文献・データを引用し、自らの考えを口頭や文章で伝えることができる。
- ・「ビジネス統合分析力」： ビジネスをめぐる課題を定義できる。
- ・「チームワーク」： 他者と協力して課題に取り組むことができる。

●成績評価の方法

- ・グループ発表と課題レポート：70%
- ・グループワークへの貢献度：30%

●成績評価の基準-ループリック-

※以下の各項目の冒頭「～～」にあたる部分が、システム入力「評価項目」に該当。

<秀>：期待している以上である

- ・「読む」：必要な文献・データを入手し、それを的確に読み取り、必要な情報を取捨選択することができる。
- ・「聴く」：話し手の意見を的確に聴き取り、的確な質問が積極的にできる。
- ・「考える」：入手した情報から論理的かつ創造的に考えることができる。
- ・「伝える」：文献・データを適切に引用し、自らの考えを口頭や文章で的確かつ効果的に伝えることができる。
- ・「ビジネス統合分析力」：ビジネスをめぐる課題を局所的にではなく統合的な視点から定義し論理的に分析することができる。
- ・「チームワーク」：他者と協力しチームとして創造的な成果を生み出すことができる。

<優>：十分に満足できる（履修目標）

- ・「読む」：必要な文献・データを入手でき、それを的確に読み取ることができる。
- ・「聴く」：話し手の意見を的確に聴き取ることができる。
- ・「考える」：入手した情報から論理的に考えることができる。
- ・「伝える」：文献・データを適切に引用し、自らの考えを口頭や文章で的確に伝えることができる。
- ・「ビジネス統合分析力」：ビジネスをめぐる課題を局所的にではなく統合的な視点から定義し分析することができる。
- ・「チームワーク」：他者と協力しチームとしてより質の高い成果を生み出すことができる。

<良>：やや努力を要する

- ・「読む」：必要な文献・データを入手でき、それを正確に読み取ることができる。
- ・「聴く」：話し手の意見を正確に聴き取ることができる。
- ・「考える」：入手した情報に基づいて正確に考えることができる。
- ・「伝える」：文献・データを正しく引用し、自らの考えを口頭や文章で正確に伝えることができる。
- ・「ビジネス統合分析力」：ビジネスをめぐる課題を局所的にではなく統合的な視点から定義できる。
- ・「チームワーク」：他者と協力しチームとして成果を生み出すことができる。

<可>：努力を要する（到達目標）

- ・「読む」：必要な文献・データを入手でき、それを読み取ることができる。
- ・「聴く」：話し手の意見を聴き取ることができる。
- ・「考える」：入手した情報に基づいて考えることができる。
- ・「伝える」：文献・データを引用し、自らの考えを口頭や文章で伝えることができる。
- ・「ビジネス統合分析力」：ビジネスをめぐる課題を定義できる。
- ・「チームワーク」：他者と協力して課題に取り組むことができる。

<不可>：相当の努力を要する

- ・「読む」：必要な文献・データを入手できない。
- ・「聴く」：話し手の意見を聴き取ることができない。
- ・「考える」：入手した情報に基づいて考えることができない。
- ・「伝える」：文献・データを引用し、自らの考えを口頭や文章で伝えることができない。
- ・「ビジネス統合分析力」：ビジネスをめぐる課題を定義できない。
- ・「チームワーク」：他者と協力して課題に取り組むことができない。

●授業の方法

個別のクラスでは、アカデミック・リテラシーや企業経営に関する文献資料、映像資料などを活用しながら、グループワークを中心に授業を進めます。また、秋学期には企業経営に関する実践的な課題の解決策をグループ単位で検討し、その成果を発表することが求められます。他方、全体の共通クラスでは、専門家からのレクチャーを中心とした授業を行います。なお、授業時間外の学修内容として、個人向けの課題やグループ単位の課題への取り組みが求められます。

●教科書補足

授業中に必要な資料や文献を適宜提示する。

●参考書補足

授業中に必要な資料や文献を適宜提示する。

●関連科目

経営学概論、会計学概論、経営科学概論

●キーワード

経営学、アカデミック・リテラシー、アクティブ・ラーニング